

(様式2)

令和3年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
3	川崎市立川中島中学校	松崎 宏行

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
「知・徳・体・意」の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 1 正しい判断力をもち、自ら学ぶ意欲のある人 (知) 2 豊かな心をもち、思いやりのある明るい人 (徳) 3 健全な心身をもち、進んで行動のできる人 (体) 4 責任感をもち、忍耐強く物事をやり遂げる人 (意)	(1)「授業力の向上」 (2)「豊かな心の育成」 (3)「健全・安全教育の推進」 (4)「地域に開かれた学校づくりの推進」	①確かな学びの充実 ②「生きる力」の育成と人権尊重教育の推進 ③信頼関係の確立 ④豊かな人間関係を育む教育の推進 ⑤健やかな体の育成と健康安全教育の充実 ⑥開かれた学校の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 各教科における基礎・基本の定着と指導法の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で基礎基本の定着に向けて、教科部会での連絡を密に、ICT活用を含めた教材の工夫や指導方法を改善し、生徒が自ら学ぶ意欲態度の育成に努めた。 授業でのルールについて、全教員が共通課題としての認識をもち、全てのクラスにおいて足並みを揃えた整然とした授業づくりとして取り組んだ。 話を聞く姿勢づくりをきちんと整わせ、時間がかかる場合には、じっくりと待ち適切な言葉をかけることで気づかせ、全体が揃って聞ける態度の育成を目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業における導入や教材教具の工夫により、生徒の学習意欲が高まり自ら学ぶ姿勢を身に付けつつあるが、基礎基本の十分な定着には至っていない。 授業におけるルールについて、教員間の差が出ないように学年打合せや教科打合せの中で、共通理解を図った。 学校生活におけるあらゆる場面において、「聞く姿勢」が大切であることを生徒に伝え、話し方を工夫する中で、態度の育成に向けて全教員で取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研究会を活性化させ、効果的なGIGA端末の活用等にむけた、研修の機会をさらに充実し、全職員で共通の課題をもつとともに、互いに研鑽することで授業力の向上を図る。 常に互いの授業を見合いながら、授業づくりの約束事を確立させるために、共通理解をもてるような継続した取り組みをする。 全ての教育活動において、全職員の言葉づかいへの意識を高めながら、生徒の「話を聞く姿勢」を育む取り組みを継続する。
2 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活にふさわしい身だしなみや言動について、会議や研修等を通して全教職員で共通認識を図り、ズレのない粘り強い継続的な指導を行った。 問題行動を起こす生徒に対しても、丁寧に時間をかけて気持ちを聞き出し、その背景を踏まえつつ原因を明らかにしながら、適切に解決できるように支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみや言動について、時間をかけて粘り強く継続的に生徒へ気づかせる指導を行った。それによって、多くの生徒がルールを守って学校生活を送ろうという意識をもつようになった。 新型コロナウイルス感染症防止を講じた学校生活により、本校の大切な活動になっているPTAや地域教育会議と連携した、朝の挨拶運動等が思うように実施する事ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の意識を充実させ、さらに丁寧な継続した指導により、より高い水準での基本的な生活習慣の定着を目指す。また、家庭との信頼される連携をより深める。 全教職員が共通認識をもって指導にあたるよう、研修会や情報交換会の充実を図る。地域や保護者の方々との連携をさらに密にして、生徒一人ひとりを丁寧に見守っていきたい。
3 生徒支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動に関して日常的に情報交換を行い、各教職員との連携のもと、個に応じた指導と支援を行った。また、保護者への連絡は丁寧に行い、家庭と学校が協力して課題を解決していけるような体制の構築に努めた。 不登校傾向生徒を含め、支援を必要とする生徒の状況を多くの教員で把握し、保護者や関係諸機関の協力を得て支援を行った。 教育相談活動やスクールカウンセラーとの相談から知り得た生徒の声を教員で共有し、多くの教員で適切な生徒支援の方向性に役立てた。 各関係諸機関と細かな連絡を取り、相談を重ねつつ、生徒と家庭の支援体制の構築に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間の素早い丁寧な情報共有と連携のもと一人ひとりの生徒にあった適切な指導を行うことができた。また、家庭訪問や面談を繰り返し、保護者との連携を充実させながら課題への解決を図った。 それぞれ生徒の状況に応じた時間での登校を設定したり、家庭訪問を繰り返すことにより、生徒を支援する体制づくりに努めた。 教育相談期間だけでなく、日頃から休み時間や放課後の時間に、生徒の声に耳を傾ける場面づくりを大切に取組んだ。さらに、スクールカウンセラーとの情報交換をおして、保護者の協力を得ながら、複数の教員で支援を行った。 各関係諸機関と連携し、家庭における生徒の様子についての的確に把握を深めつつ、支援体制の構築に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間で素早く丁寧に情報を共有化すること、家庭訪問や面談等とおして保護者と連携を図ることは、今後も細かく確実に実施し継続する。 家庭訪問や生徒にあった登校時間の設定、取り出し授業等の個別支援については、生徒と保護者の気持ちを尊重しながら継続していきたい。 教育相談期間のみならず、学校生活における様々な場面において、生徒の声に耳を傾ける機会を大切にしたい。また、スクールカウンセラーや保護者との連携も継続させ充実できるよう考えていく。 各関係諸機関との連携は、家庭等における状況把握と支援体制の構築のために大変重要になっている。引き続き大事に関係を築いていけるよう取り組んでいきたい。

4	健康・安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に健康教育を実施し、自ら心身の健康に関心をもつ生徒の育成に努めた。また、養護教諭を中心に、保健だより等を効果的に用いて、家庭と連携して生活習慣の改善に努めた。 ・快適な学習環境を整備し作り出すと共に、日頃から落ち着いて、安全安心に配慮して生活する生徒の育成に努めた。 ・給食委員会を中心にして、食事のルールやマナー等食育に対する、クラスの課題と解決策を考えさせ、全クラスへの浸透を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に健康教育を位置づけ、養護教諭と連携して、学年の発育発達段階に応じた指導を行った。健康面から考えた基本的な生活習慣の定着や、自らの健康を意識する生徒の育成に一定の成果があった。 ・複数の教員で毎時間の巡回を行い、授業中の生徒観察や校内環境の整備に取り組み、必要に応じた早期の改善を図った。 ・配膳片付け時、食事中等におけるルールやマナーについて、生徒自らが考え、クラスや学年の食育に対する意識が深められるように取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の健康により関心をもつ生徒の育成を目指すため、身近な生活と健康について考えさせながら、家庭との協力連携をより推進する。保健だより等を活用し、さらなる健康教育の充実に努める。 ・学級指導や委員会活動等における指導の充実により、丁寧に清掃活動を行う生徒が増えてきた。さらに、日ごろ自らが学習や生活する環境を整え、施設設備を大切にす気持ちをもつ生徒の育成に努める。 ・給食の準備や片づけ、食事のマナーやモラルを含め、食育に関する指導について、教職員で共通理解を図り協力して取り組む。
5	保護者・地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止を講じた学校生活により、これまで実施してきた保護司の方による見守り活動(校舎内巡回)、保護者の見守り活動(2校時校舎内巡回)を実施することができなかった。 ・厳しい現状下のなかではあるが、地域教育会議の方々による花いっぱい運動等とおして、学校環境を明るくしていただくことはできた。しかしその他の活動による地域や関係機関、保護者との連携について、実施に結びつけることができなかった。 ・学校だよりや学校ホームページ、メール配信等を利用して、学校活動において取り組んでいる様子や行事の計画予定について情報発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制限のある取り組みの中で、精一杯努力している様子を観ていただきながら、生徒の落ち着いた学校生活が、さらに継続することができるように地域の方や保護者による見守り活動の実施を早く再開したい。 ・花いっぱい運動等は、地域の方々だけの取り組みとなり、生徒と一緒に創り上げることができなかった。しかし、常に見守っていただけている事に対して、感謝の気持ちを育てることに繋げることができた。また、地域の方が講師となって、生徒の豊かな体験活動の場となる「ふれあい体験講座」も実施できなかった。 ・学校ホームページやメール配信を利用して、保護者に向け定期的に予定等の連絡ができた。また、学校だよりやPTA広報誌により、生徒の活動や学校の様子を保護者へ知らせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護司や地域の方、保護者の協力を得ながら、今後も生徒が落ち着いて、安心安全に学校生活ができるように努める。 ・見通しの立てにくい状況ではあるが、今できる事は何かを模索しながら、新しい発想を取り入れ多くの方々の知恵をいただき、生徒たちの幅広い活動への充実に努める。 ・学校だよりや学校ホームページ、メール配信等を利用して、家庭や地域へ学校の様子を発信し、教育活動に協力をいただけるように努める。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・私語が聞こえてくることなく、とても授業に集中している様子がよい。次への行動も素早く準備も整っていた。パソコンの活用は現代的だと感じている。 ・コロナ禍の中、いろいろな対応をいただきありがたい。しかし、授業の進度に不安があるので、学習への充実に期待したい。 ・いつ大きな災害が起こるかかわからない今、この時代の子供達がどう対応しているか心配である。家庭での取り組みと共に、是非学校での体験活動など機会をつくり、現代の子供達が乗り切れる環境づくりに力を貸してほしい。 ・今現在、学校と保護者そして地域や関係機関が、一体となり活動することには制限があるが、より良い学校づくりを目指し、生徒の活動が活性化し多くの成果をあげることができるよう期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域が期待する本校の教育活動について、誠実に答えていけるように取り組みを充実させさらなる向上を図る。 ・生徒に基礎学力を身につけさせる魅力ある授業を目指し、常に研鑽を積み授業力の向上に取り組む。 ・「時間」「挨拶」「掃除」を生徒に意識づける活動が定着してきた。さらに、「話を聞く姿勢」を磨き、自ら考え判断する力のもと生徒主体で活動させたい。 ・本校の教育活動における、授業内容や評価評定そして様々な指導場面における言動等について、保護者が注目している。そうした中、研修を実施して教員の資質向上に取り組むと共に、学校の様子を分かりやすく発信すること等とおして、保護者に信頼され理解される教育活動を展開していく。